

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 7月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	0174700856		
法人名	有限会社 グループホームあさひの里		
事業所名	有限会社 グループホームあさひの里		
所在地	中川郡本別町柏木町156番地 1 (電話) 01562-2-4387		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成19年6月27日	評価確定日	平成19年7月19日

【情報提供票より】(平成19年6月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤6人・兼務1人, 非常勤5人,	常勤換算2.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建て	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	約10000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 250 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(6月7日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1	要介護2	4		
要介護3	1	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 88.8歳	最低	85歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本別町国民健康保険病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は閑静な住宅街に位置し、事業所前にはビニールハウスが設置され花や木々利用者の手で育てられており、利用者の楽しみ事の一つとなっている。管理者・職員は共に理念を確認しながら利用者一人ひとりのペースを大切に、思いに沿った日々のケアサービスを実践している。また、町主催の行事に積極的に参加し、地域との交流を深めるとともに、職員は研修会・交流会に参加し、事業所全体で質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題を踏まえ、毎月アセスメントを行い、定例会議において話し合い介護計画の見直しに取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価を行い、改めて理念を共有し、利用者一人ひとりへのケアサービスについて見直している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	3ヶ月に1度、運営推進会議が開かれており、事業所の地域への理解・役割などが徐々に理解されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者の生活状況を定期的に家族に報告している。また、来訪時や電話にて相談・意見・苦情を聞き、運営に活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会や地元の他事業所と情報提供を行い、サービスの連携に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者の長年の介護経験を基に理念をつくりあげており、事業所の見やすい位置に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員共に理念を確認しながら、日々のケアサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当事業所は、自治会主催の認知症予防教室や町の行事に積極的に参加するなど、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は、自己評価及び外部評価を行うことにより気付いた点を改善し、日々のケアに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>3ヶ月に1度、運営推進会議が開かれており、事業所の近況報告を行い、会議において出た意見をサービスの質の向上に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町主催の会議に積極的に参加しており、町との密なる連携が取れている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>来訪時や電話にて家族に利用者の日頃の様子を伝えている。また、毎月便り送付時に金銭出納帳のコピーを同封し、報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情に関する窓口は情報提供票に明示されている。また、運営推進会議開催時や来訪時に家族の意見を聞き、運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は少なく、利用者との馴染みの関係が築かれている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員が北海道グループホーム協議会や十勝グループホーム協議会主催の研修会等に参加する機会を設けており、職員は積極的に受講している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員交換研修や職員間での交流会を実施しており、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族に事業所見学をしてもらい、一緒に食事を摂り会話を交わしていくなど、徐々に馴染めるような配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や草花・野菜の手入れなど、利用者から教えてもらい共に支え合う関係が築かれている。また、職員は利用者から信頼を得るような言葉使い・対応となるよう心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者一人ひとりの個別アセスメント表を作成しており、職員は本人の希望の把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	毎月の全体会議にてカンファレンスを行い、家族・関係者との話し合いの中で出た意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	定期的に介護計画の見直しを行うと共に、利用者の身体状態に変化があった場合は、全体会議やミーティングにおいて全職員で話し合い、状況に応じた介護計画を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	医療機関への通院支援や、デイ利用・ショートステイ利用への送迎など柔軟な支援を実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	利用者一人ひとりの希望に応じた受診支援を行っており、受診日への配慮もなされている。	○	今後、行政担当者を含めた関係者との話し合いを行い、医療機関とより一層連携を取る事が期待される。
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	家族・主治医と話し合い、終末期についての方針を検討している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した対応がなされている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	職員は利用者一人ひとりの意見・希望を聞き、その人らしい生活を過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、調理・配膳・後片付けなど職員と一緒にやっている。また、利用者の体調や嗜好に応じた献立が組まれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間帯は決めてあるが、本人・家族の意見も取り入れながらの入浴支援を行っている。また、入浴剤を使用して入浴を楽しむ等の工夫も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫・習字・食事の準備など、一人ひとりの生活歴や好みに応じた支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて、公園への散歩や買い物などの外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が施錠することの弊害を理解しており、居室や日中玄関に施錠することはない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署による協力の下、避難・消火訓練を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の水分摂取量・食事量を把握している。また、体重が増加傾向の利用者へは、盛り付けの工夫による食事量の配慮がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に季節の花や観葉植物を置いて季節感を採り入れたり、時計やカレンダーを設置し生活感がわくような工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家族に利用者の馴染みの物を持参するよう勧め、本人が居心地良く過ごせるように配慮している。		

 は、重点項目。